

平成25年4月2日

都道府県ホッケー協会・関係団体 御中  
ブロック競技部長・審判長 殿  
都道府県競技部長・審判長 殿  
公認TD・TO・J・UM・審判員 各位

公益社団法人 日本ホッケー協会  
技術委員会 委員長 西田 範次  
同 審判部長 千野 雅人  
(公印省略)

## 2013年版競技規則の訂正並びに規則解釈について(通達)

陽春の候、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より技術委員会の諸事業に対しまして、格別のご協力を賜り深く感謝いたしております。

さて、2013年度の競技規則記載事項の訂正並びに規則の解釈につきまして、次のとおり通知いたします。つきましては、この通知事項を貴管下関係チーム及び関係者に周知していただきますよう、よろしくお願いいたします。

### 記

#### 1 6人制規則の訂正

競技規則 112 ページ 6.5 a 「フリーの項」の記載事項について

訂正前

プレイが中断した時にボールがあった位置の近い地点で行われる。ただし、バックラインから12m以内の地域を除く。

訂正後

プレイが中断した時にボールがあった位置の近い地点で行われる。ただし、サークル内及び、サークルから4m以内の地域を除く場所で行われなければならない。

#### 2 6人制規則の解釈(センターパスについて)

センターパスは、ボールをセンターラインに置いて行われる。センターラインは、自陣エリアか攻撃エリアかを次のとおり明確にする。

6人制のセンターラインの位置づけは、11人制の23mラインと同様の扱いとする。つまり、攻撃側エリアとなるので、以下の2点について規則運用に配慮していただきたい。

- ① センターパスを行うときは、ボールをプレイする選手以外は、両チームの選手ともにボールから少なくとも4m以上離れていなければならない。
- ② ボールをプレイしてから、少なくとも4m以上ボールが動かされるか、センターパスを行った選手以外の選手によって触れられるまでは、そのボールをサークル内に入れることはできない。

#### 3 フリーヒット

2013年度の競技規則では、フリーヒットの項で「セパレートアクション」に関する記述が削除された。この根拠となる規則は、「FHは、ヒット、プッシュ、フリックあるいはスクープを使って行う。なおかつ、FHをした選手は、何度でもボールに触ることができる。」この2項により記載の必要性がなくなったにすぎないということである。従って、セパレートアクションがなくなったものではないので、以下に示すことに留意して規則を運用していただきたい。

- ① フリーヒットにおいて、ドラッグ(引きずり)を行ってはならない。
- ② フリーヒットにおいて、直接ドリブルをすることは許されない。

#### 4 競技規則の冊子訂正箇所 ※当協会ホームページ掲載のデータは訂正済

- ① 15ページ 1.7 ゴールラインのフィールド内側 → 外側
- ② 24ページ 4.7 d スティックは、HRB → FIH規則委員会
- ③ 78ページ 競技フィールド図 L 矢印をゴールラインの内側 → 外側まで記載する

このことについての問合せは、技術委員会 審判部 平尾 豊 まで

E-mail a54\_hirao@yahoo.co.jp TEL 090-7372-0054